

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学・物理療法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 集中講義	教室名	2校舎3階実技室(前)
担 当 教 員	澤 卓 実	実務経験と その関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年: 整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年: 柔道整復業務に 従事)			
《授業科目における学習内容》						
物理刺激が生体に与える影響を理解したうえで、物理療法の適応と効果、禁忌、実施方法及び注意事項について学び、また、物理療法機器を使用し実習を行い、根拠に基づいた施術の選択から実施にいたるプロセスを経験することで、物理療法の実践能力の習得を目標とする。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験: 90% 2. 小テスト: 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編(改訂第6版: 南江堂) 標準理学療法学 物理療法学(医学書院) 随時プリント配布						
《授業外における学習方法》						
物理刺激による生体反応や物理療法に関する基礎知識などを理解するために講義の復習を毎回行い、根拠に基づいた治療方法の選択肢、リスク管理をしながら適切な方法で治療機器が操作でき、学んだ知識を臨床の場で活用できる実践能力を習得できるよう学習する。						
《履修に当たっての留意点》						
物理刺激が生体に与える影響を理解し、物理療法の適応と効果、禁忌、実施方法を理解し注意しながら積極的に授業へ取り組むこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	後療法と手技療法を理解する。	教科書	講義の復習と次回講義の予習を必ずすること	
		各コマにおける授業予定	後療法とはなにか、C・手技療法			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動療法を理解する。	教科書	講義の復習と次回講義の予習を必ずすること	
		各コマにおける授業予定	D・運動療法			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	物理療法を理解する。	教科書	講義の復習と次回講義の予習を必ずすること	
		各コマにおける授業予定	E・物理療法 物理療法とは			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	物理療法を理解する。	教科書	講義の復習と次回講義の予習を必ずすること	
		各コマにおける授業予定	E・物理療法 電気療法			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	物理療法を理解する。	教科書	講義の復習と次回講義の予習を必ずすること	
		各コマにおける授業予定	E・物理療法 温熱療法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	物理療法を理解する。	教科書	講義の復習と次回講義の予習を必ずすること
		各コマにおける授業予定	E・物理療法 光線療法・寒冷療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	物理療法を理解する。	教科書	講義の復習と次回講義の予習を必ずすること
		各コマにおける授業予定	E・物理療法 牽引療法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	講義の復習をし学生の理解度の確認をする	教科書	全講義の総復習を必ずすること
		各コマにおける授業予定	講義の復習をし学生の理解度確認		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			